

石綿(アスベスト)関連肺・胸膜疾患の 的確な診断と新規治療法の導入

独立行政法人 労働者健康安全機構 ● 藤本伸一
岡山労災病院 腫瘍内科 アスベスト疾患研究・研修センター

欧米では以前から、中皮腫の約80%が石綿ばく露により発生しその大半が職業性石綿ばく露によると報告されていたが、本邦では石綿ばく露と中皮腫の発生に関する全国的な調査・研究はなされていなかった。平成17年のいわゆる「クボタ・ショック」を受け、当機構では厚生労働科学特別研究として「職業性石綿ばく露と中皮腫発生に関する研究」(研究代表者 岸本卓巳)を開始した。人口動態統計で把握し得た、平成15年から20年の6年間に中皮腫で死亡したとされる約6,000例について、遺族及び死亡診断書作成病院の了解を得て診療録、画像、病理標本の収集及び遺族に対するアンケート調査結果を検討し、わが国でも中皮腫の約80%が職業性ばく露を主体とした石綿ばく露が原因となって発生していたことを明らかにした。

その後の厚生労働科学研究「職業性石綿ばく露による肺・胸膜病変の経過観察と肺がん・中皮腫発生に関する研究」「胸膜中皮腫の的確な診断方法に関する研究—鑑別診断と症例収集—」(いずれも研究代表者 岸本卓巳)では、胸膜中皮腫の診断精度の向上を図るため、中皮腫の画像パターンの解析、胸水の分子診断マーカーの診断意義についての検討、病理学的鑑別診断のための新規免疫組織化学マーカーの探索を行ったほか、石綿健康管理手帳取得者を対象とした低線量胸部CT検査を行い、肺がんや早期の中皮腫を診断するための有用性について報告した。また、石綿肺や胸膜中皮腫の鑑別疾患として重要な良性石綿胸水及びびまん性胸膜肥厚にも着目し、症例収集を行い臨床的特徴の解明に取り組んでいる。

さらに、労災疾病臨床研究補助金事業「胸膜中皮腫に対する新規治療法の臨床導入に関する研究」(研

究代表者 藤本伸一)では、悪性胸膜中皮腫に対する新たな治療法として抗PD-1抗体の有用性を検討するため「切除不能悪性胸膜中皮腫に対する初回化学療法としてのシスプラチン、ペメトレキセドおよびニボルマブ併用化学療法の第II相試験」を医師主導治験として企画、立案し、治験を実施中である。

また、中皮腫患者におけるQuality of lifeの実態を明らかにするため、全国規模での横断的な調査を行った。これらの調査を通じて、中皮腫患者は様々な困難や要望を抱えていることが明らかとなり、これらの要望に応える具体的な方策として中皮腫患者や家族に適切な情報を提供する「患者さんとご家族のための胸膜中皮腫ハンドブック」(図)を開発した。現在は引き続き、労災疾病臨床研究補助金事業「石綿関連胸膜疾患における個別化治療とケアの確立」(研究代表者 藤本伸一)において、胸膜中皮腫の早期診断や治療に応用可能なバイオマーカーの探索や、石綿ばく露によるびまん性胸膜肥厚における著しい呼吸機能障害を客観的に評価する指標の確立に取り組んでいる。

石綿関連疾患を早期に発見・診断し治療につなげ、また、労災・救済認定の迅速・適正化等に寄与することが我々の継続的な研究テーマである。



図. 適切な情報提供のために開発されたハンドブック